

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成13年度 第3号

2001年11月2日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

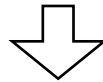
Fax: 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：平成13年10月30日～11月1日
- ・調査海域：道南太平洋の水深100～600m海域

- ・反応は胆振から日高海域（特に苫小牧以東）で強く、渡島側では薄い
- ・分布水深は渡島側では300m前後と400m以深、胆振側では250～380m（中心は330～350m）
- ・海域全体のスケトウダラの平均反応量は9月の4倍に増加したが、平成10～11年と比較すると低い



- ・胆振側では今後徐々に漁獲が増加
- ・渡島海域では、魚の来遊が昨年と同様に遅れている

1. スケトウダラは胆振～日高海域の水深300m前後の等深線にそって帯状に分布していました（図1）。特に苫小牧以東で強い反応が観察されました。分布水深は、250～380mの範囲にあり、中心は330～350mでした（図2）。
2. 噴火湾口部から渡島海域にかけては、魚群反応が全体的に薄く、湾口部では水深300m前後、南部では水深400m以深に比較的強い反応が観察されました（図1、2）。
3. 海域全体の平均反応量は、9月の約4倍に増加しましたが、平成10～11年と比較して低い値でした（図3）。
4. 魚群が胆振東部から日高海域に分布していることから、今後胆振海域の漁獲は徐々に増加してくるものと思われます。一方、渡島海域は魚群が薄く、来遊が遅れていると思われることから、漁獲が増加するのは昨年同様12月ごろとなる可能性があります。

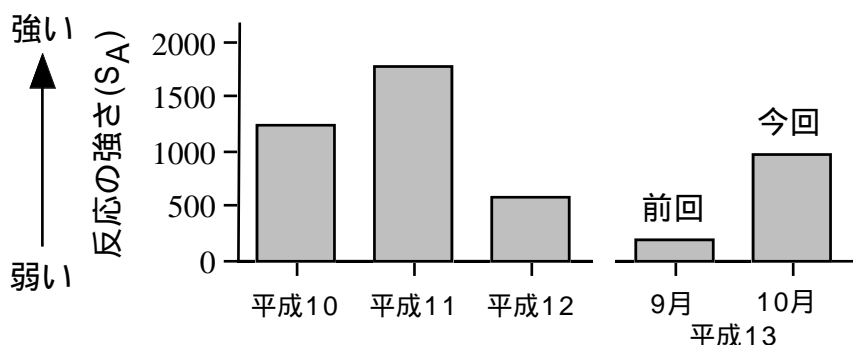


図3. 9～10月のスケトウダラ平均反応量

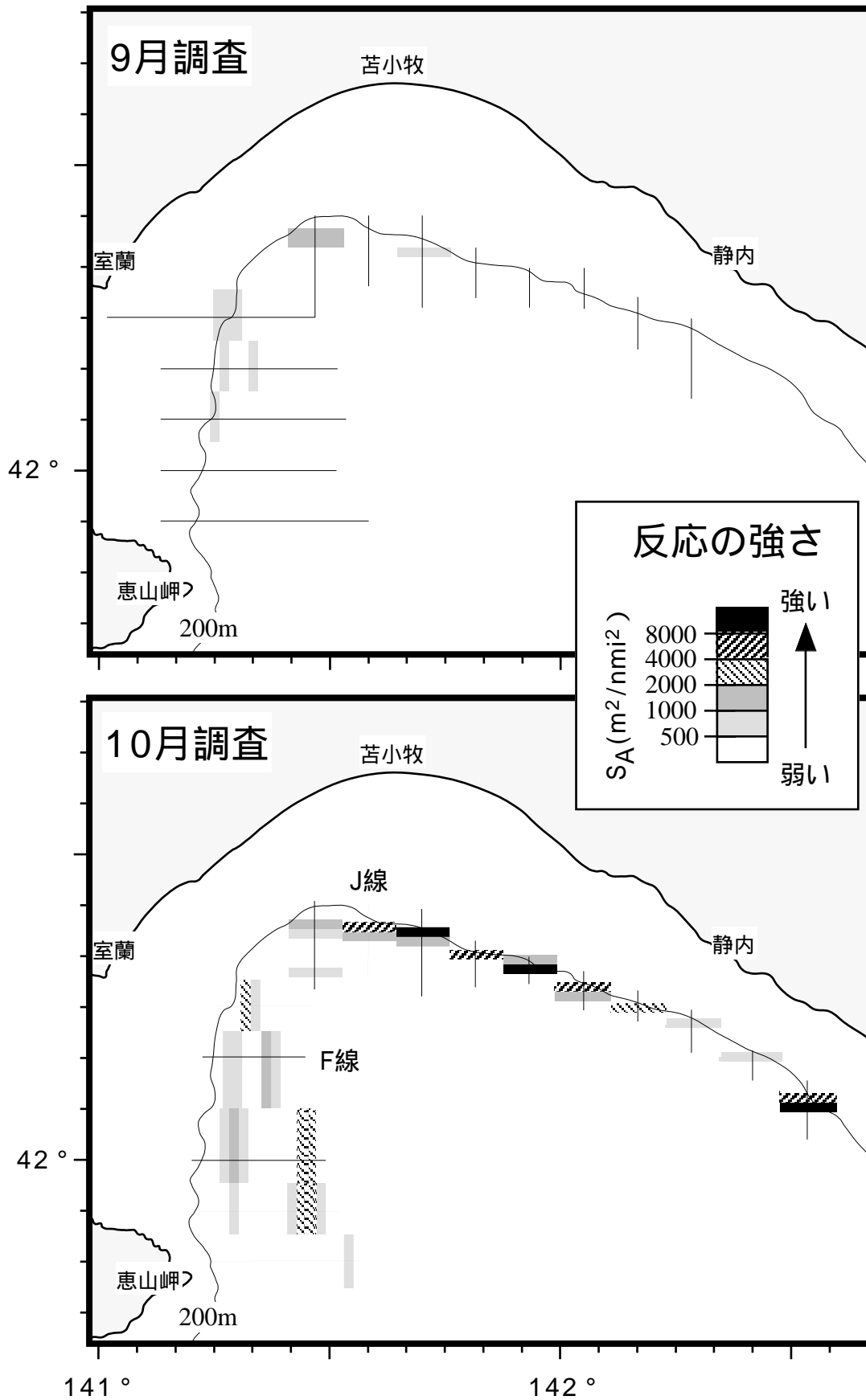
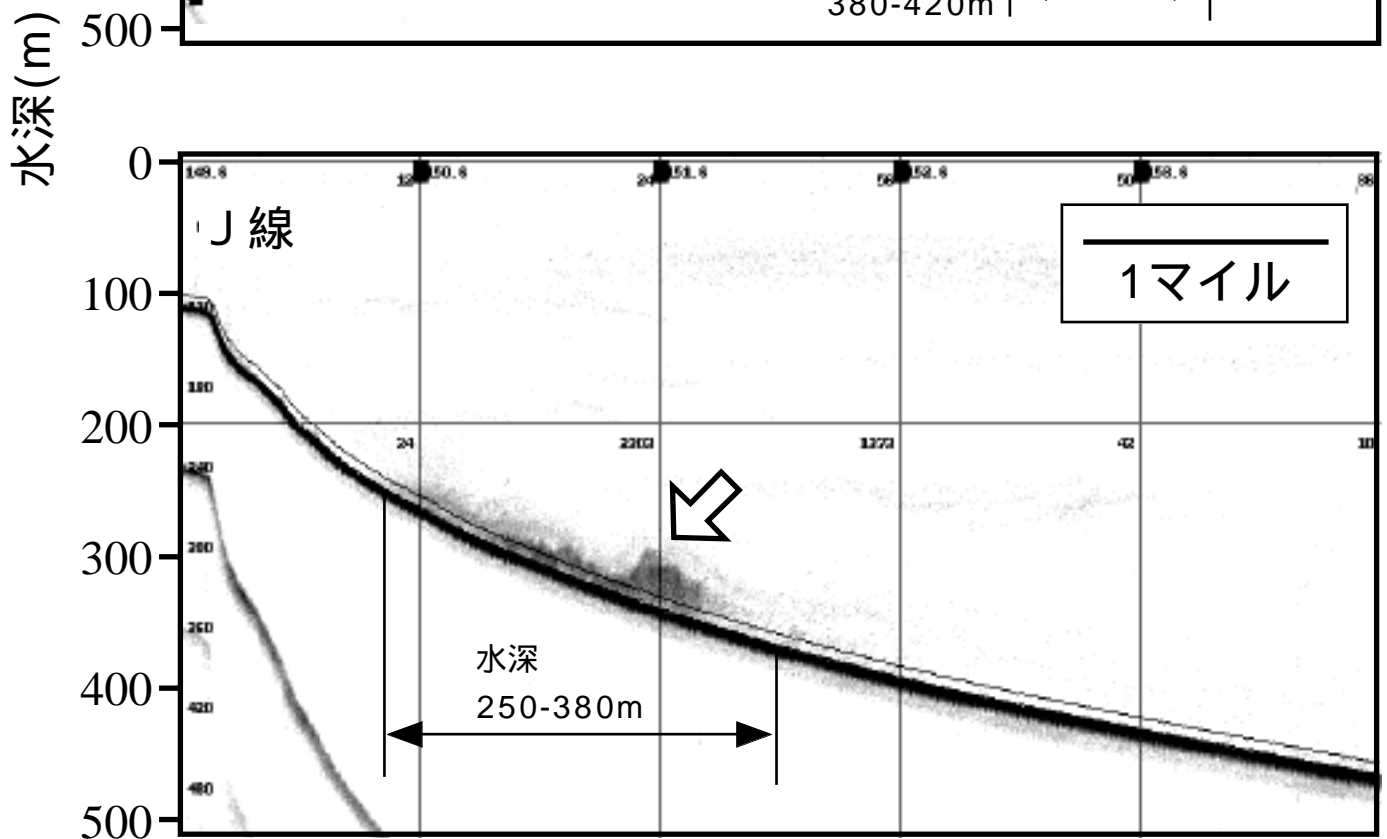
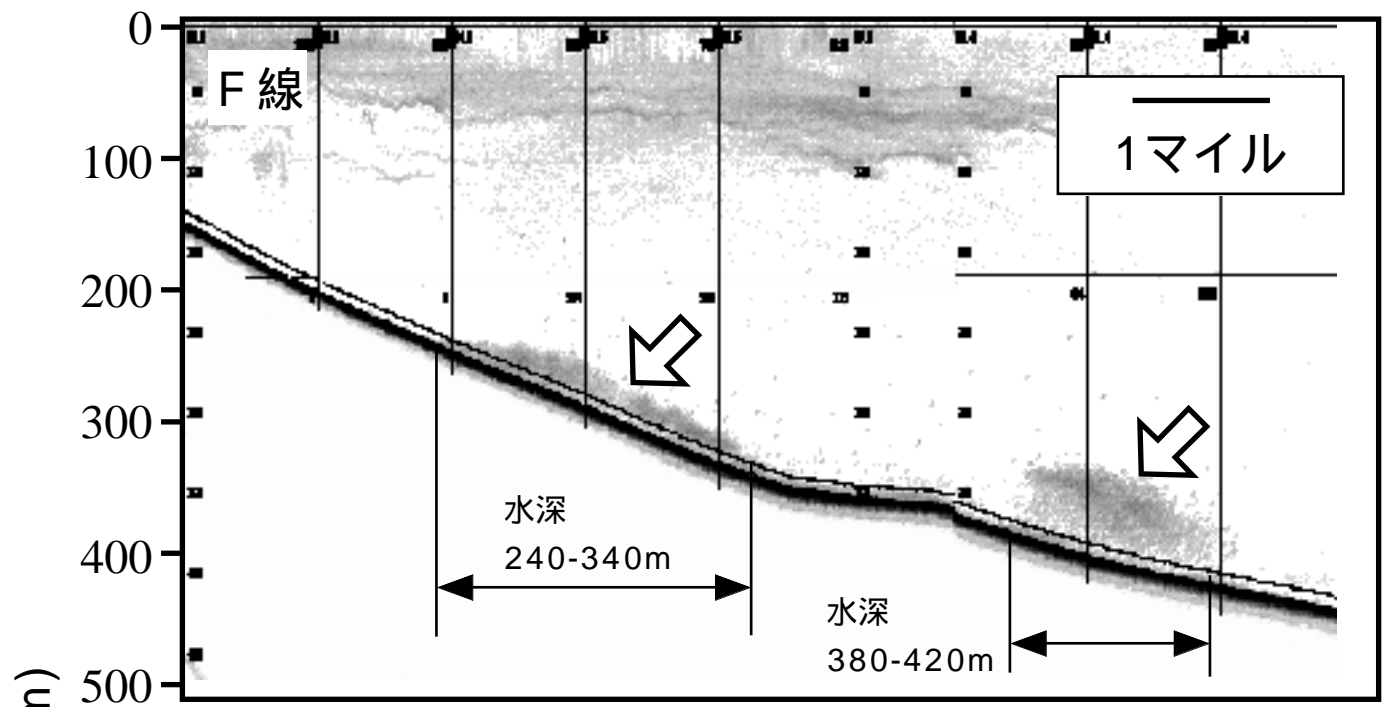


図1 前回（9月）と今回（10月）の魚群水平分布
 （FAXの見やすさを考慮してニュース1号とは表示が変わっております）



⇒ : スケトウダラの反応

図2 10月調査における魚探画像